



Title	日本語・日本文化 第43号 奥付
Author(s)	
Citation	日本語・日本文化. 2016, 43
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56964
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

執筆者紹介（掲載順）

岩井 茂樹	本センター准教授
大和 祐子	本センター准教授
薦 清行	本センター准教授

編集後記

現在のセンター棟の竣工を記念して、本誌は第23号をもって装丁を一新した。その編集後記には、本センターでの今後の教育・研究の発展について希望に満ちた抱負が綴られている。それから、かれこれ二十年、教育面ではいまや本センターは文部科学省認定の「教育関係共同利用拠点」として、全国的にその存在感を強めつつあるが、そういったときだからこそ、研究面でも一層の精進が必要である。そこで、初心を忘れず、われわれの身を律するためにもこの第43号から地味な装丁に戻すことにした。隠れた決意の現れである。

さて、今号では、日本文化における視線の特徴と意味を通史的に捉えようとし、その手始めに「美人画」とジャンル分けされる日本の絵画作品を取り扱う巻頭の岩井論文、留学生向けの文法・漢字ブレースメントテストの信頼性とその利用可能性について検証した大和論文、そして源光行による和歌集『蒙求和歌』の伝本間における文体上の特徴に焦点をあて考察を加えた薦論文の三点の研究論文をお届けすることができた。

本誌としては、言語・文化・教育の三つの系域からの継続的な論稿掲載を目指しており、今号でも数は少ないがそれぞれの系域での力作が揃えられたことは、まことに喜ばしい限りである。次号でのさらなる投稿を期待したい。(H.K)

『日本語・日本文化』投稿規定

1. 資格：本センターまたは関係機関所属教員（非常勤を含む）及び『日本語・日本文化』編集委員会において適当と認められた者。
2. 内容：日本語・日本文化等に関する未発表の研究論文・研究ノート・研究報告等。
3. 体裁：研究論文は 400 字詰原稿用紙 50 枚前後（欧文は A 4 ダブルスペース 30 枚前後）、研究ノート・研究報告は 25 枚前後（欧文は 15 枚前後）。
4. 要旨：本文和文の場合、欧文による要旨（A 4 ダブルスペース 1 枚）を、欧文の場合は、和文による要旨（800 字程度）を添付。
5. 採否：原稿の採否は『日本語・日本文化』編集委員会が決定。

編集委員

加藤 均 今井 忍 村田 真実

日本語・日本文化 第 43 号

2016 年 3 月 1 日 発行

編 集	大 阪 大 学
発 行	日本語日本文化教育センター
	〒 562-8558
	箕面市粟生間谷東 8-1-1
	電 話 (072) 730-5459
	FAX (072) 730-5074
印 刷	株式会社アイジイ